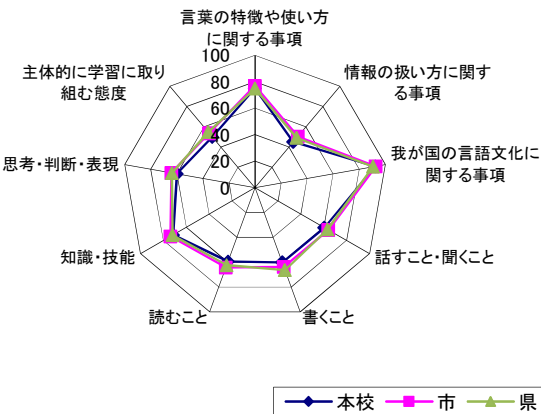


宇都宮市立雀宮中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	75.1	76.9	74.9
	情報の扱い方にに関する事項	45.0	50.3	49.2
	我が国の言語文化にに関する事項	92.3	92.6	90.7
	話すこと・聞くこと	60.5	64.2	63.4
	書くこと	60.2	63.7	66.4
	読むこと	59.4	64.2	62.5
観点	知識・技能	71.5	73.7	71.9
	思考・判断・表現	60.0	64.1	63.8
	主体的に学習に取り組む態度	50.1	53.8	54.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率が市平均より1.8p下回ったが、県平均より1.3p上回った。 ○単語について県平均正答率と同等に理解力が高い。 ●第一学年までに学習した漢字を正しく読む力が弱い。	・漢字や文法の知識を確実に定着できるよう小テストを実施する。また、間違った学習事項は家庭学習で再度復習するよう指導するとともに、家庭学習実施の有無及び定着度の再確認をし、基礎学力の伸長を図りたい。
情報の扱い方にに関する事項	平均正答率が市平均より5.3p下回り、県平均からも4.2p下回った。 ○話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめる力が、県同等に高い。 ●情報と情報との関係について理解し、必要な情報に着目して内容を解釈する力がやや低い。	・教科書以外のさまざまな文章や情報に触れさせる機会を設け、取り組ませていくことで、情報を捉えて必要な内容を解釈し、活用する力を育ませたい。
我が国の言語文化にに関する事項	平均正答率が市平均に比べて0.3p下回ったが、県平均に比べると1.6上回った。 ○文節の関係について理解する力が県正答率と同等である。 ●故事成語についての理解が県平均に対して低い。	・古典では、歴史的仮名遣いに注意させながら音読し現代語訳や注釈を参考にしながら内容の概要をつかめるように指導していく。
話すこと・聞くこと	平均正答率が市平均より3.7p下回り、県平均より2.9p下回った。 ○相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫しているという項目が県平均同等である。 ●自分の考えが明確になるように話の構成を考えているという項目が県平均に比べて下回っている。	・聞き取り問題は、各学年で年間6回程度実施している。引き続き実施し、問題の解説の際に、再度CDを聴かせ、聞き取るポイントについてより理解が深まるよう指導を継続していく。 ・スピーチを聞いてメモを取る取り組みを今後も継続し、聞き手に理解してもらうための話し方の工夫や話の内容を正確に理解できるような聞き方・話し方の指導の充実を図る。
書くこと	平均正答率が市平均より3.5p下回り、県平均からも6.2pと下回った。 ○読み取った内容を明確にして書く力が県平均同等に高い。 ●指定された長さで文章を書く力が県平均より低い。	・書くことへの抵抗感を減らすために、自分の知識や体験をもとに、構成を工夫して簡単な文章を書かせる時間を増やしたり、作品を読んで書評を書いたりする時間を確保する。また、書いた文を推敲して読みやすい文章に仕上げる活動を積極的に取り入れていく。また、感想文や意見文等、自分の考えを作文用紙を使って書く活動を多く取り入れる。その際、基本的な作文の書き方を確認し、自己評価できるようポイントを絞って指導したい。
読むこと	平均正答率が市平均より4.8p下回り、県平均より3.1p下回った。 ○表現の効果について、近経を明確にして考えたり、文章を読んで考えたことに基づいて自分の考えを確かなものにする力が優れている。 ●文章の内容について叙述を基に捉える力が県平均に比べて低い。	・説明的文章では、接続詞や文末表現に注目させながら、「何について述べられているのか」(文章の内容)「どのように述べられているのか」(文章の書き方)というポイントを押さえて読み取らせる。また、文学的文章では、場面や登場人物の設定の仕方、人物の考えや心情を捉えて作品を読み味わうように指導する。